

## 「学力向上ポートフォリオ(学校版)」 ～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

### <本年度の学力向上基本方針>

「自ら学び、仲間と学び、自分の思いや考えを深め、表現できる子の育成」  
－ 計画的な学習指導による基礎学力の確実な定着と、主体的・対話的で深い学びの充実－

### 4月 学力向上目標①

○市学習状況調査において、全ての学年で国語科の正答率が市の平均値を上回るようにする。特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を、第5学年では5pt、第6学年では3pt 向上させる。

### <目標達成に向けた学力向上策>

#### 策1

業前学習「パワーアップタイム(週3回)」を中心とした、新出・既習漢字、文章の主述把握等の反復・習熟。また、国語科学校課題研究を通じた授業改善による、PISA型読解力の育成。

開始期日

7月中

#### 具体的な手立て

- ・令和元年度の市学習状況調査分析と授業を通じた児童の実態把握。
- ・学校課題研究専門部会によるパワーアップタイム年間指導計画作成及び実施。
- ・校内授業研究会を通じた国語科授業づくりに対する共通理解及び授業改善。

8月

### 本年度の振り返り

※本校独自に実施・採点・分析

6年で実施した全国学力・学習状況調査(※)の正答率は、昨年度の市平均を大きく上回った。その中でも「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」における正答率は、昨年度と比較して10pt以上向上していることから、パワーアップタイム等での反復・習熟の成果が表れているといえる。

また、国語アンケート(※)では、「友達の意見や考えを聞いて、自分の考えを広げたり、よりよい考え方をしたりすることができる」の質問で、「そう思う・どちらかと言えばそう思う」と答えた児童の割合が昨年度に比べ2pt向上している。このことから、授業改善による学びの深まりを児童自身が実感できているといえる。

達成度

### 次年度の学力向上目標の柱・ポイント

本校の学校課題研究では、書く活動を重視した授業改善に取り組み、成果をあげることができた。しかし、全国学力・学習状況調査の結果では、「事実と意見を区別して書く」ことや「目的や意図に応じ、自分の考えをまとめる」などの記述式問題では課題が残る。

そのため、様々な条件に合った書き方が求められたときの対応力を養うよう、反復・習熟を行うとともに、授業改善を進めていく必要があるものと考えている。

3月

## 4月 学力向上目標②

○市学習状況調査において、全ての学年で算数科の正答率が市の平均値を上回るようにし、特に第5学年では各領域で令和元年度より3pt向上、第4学年の「数量関係」の領域で3ptの向上を図る。

## &lt;目標達成に向けた学力向上策&gt;

## 策1

少人数指導担当教諭・スクールアシスタントを活用した算数少人数指導の充実と、業前学習「パワーアップタイム」での筆算や単位換算等の反復・習熟。

開始期日

7月中

## 具体的な手立て

- ・少人数指導担当教諭・スクールアシスタントの適切な配置と空き時間を活用した「学年内少人数指導」による時間割の編成。
- ・令和元年度の市学習状況調査分析と授業を通じた児童の実態把握。
- ・学年の実態に応じた「パワーアップタイム」年間指導計画の作成及び実施。

8月

## 2月 本年度の振り返り

※本校独自に実施・採点・分析

6年で実施した全国学力・学習状況調査(※)の正答率は、昨年度の市平均を大きく上回った。学年内少人数指導やスクールアシスタントの適切な配置により、個々への学習支援が充実した成果が表れている。

また、パワーアップタイムを活用した反復・習熟は、基礎学力の向上につながっており、更なる向上のために今後も取組を継続していく。

達成度

## 3月 次年度の学力向上目標の柱・ポイント

※本校独自に実施・採点・分析

今年度の全国学力・学習状況調査(※)で、正答率が昨年度の市平均を下回る領域があった、図形領域における直径・円周・円周率の関係に対する理解や数量関係の領域におけるグラフの多面的な読み取り等を重点項目とし、全教員の共通理解と関連する指導内容の改善を図る。また、パワーアップタイムでも積極的に取り上げ年間計画に位置付けて、反復・習熟を充実させる。